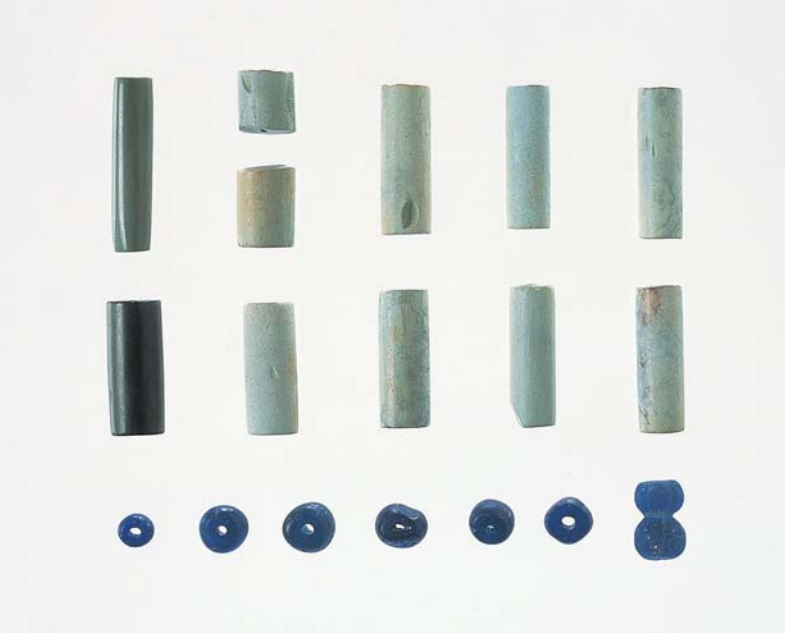
原　色　図　版

原色図版一　1号地下式横穴墓　人骨及び副葬品の検出状況と出土玉類

出土人骨及び副葬品配置の状況
（西から）



出土の玉類

装着状況を復元した玉類

原色図版二　3号地下式横穴墓　玄室検出状況

羨門から玄室を望む（南から）

図　　版

図版一　調査地遠景および近景

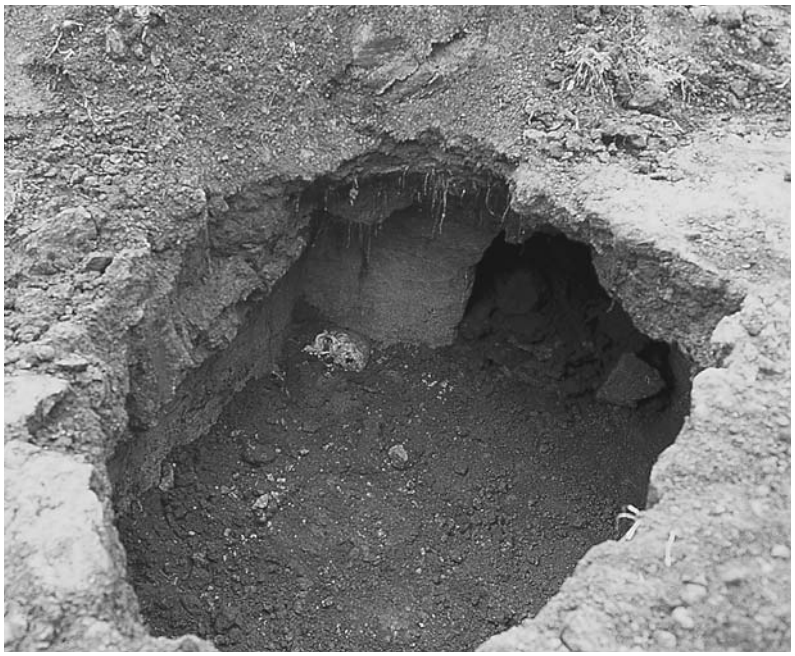
三財川下流域付近から
九州山脈を臨む（東から）

調査地上空付近（東から）

調査地近影（東から）

図版二　1号地下式横穴墓（一）

玄室天井部の陥没直後の状況（西から）



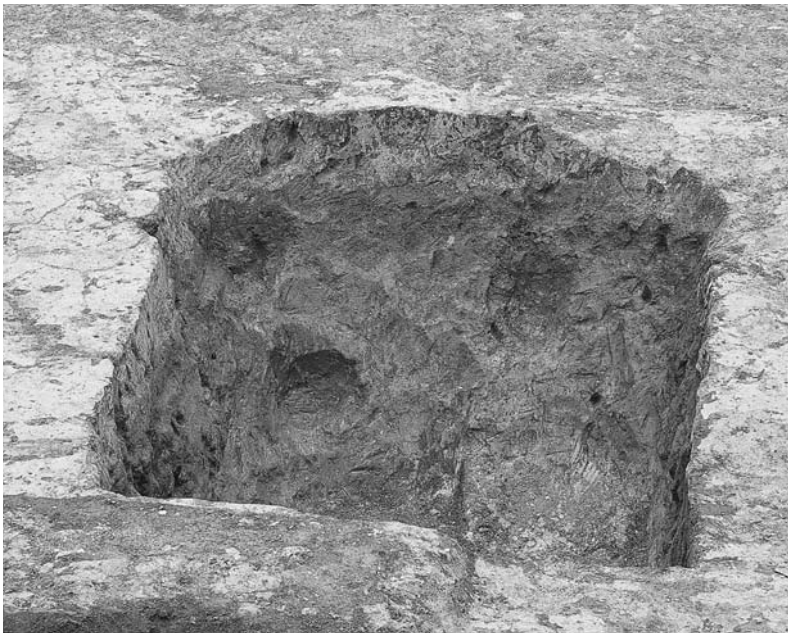
陥没直後の玄室内部の状況（北から）

1号・2号竪坑検出時の状況（北西から）

図版三　1号地下式横穴墓（二）

竪坑埋土の状況（南から）

竪坑の床面形成土（南から）



竪坑の足掛けステップ（北西から）

図版四　1号地下式横穴墓（三）

貼り床面を残した竪坑検出状況（西から）

貼り床面除去後の竪坑検出状況（南から）

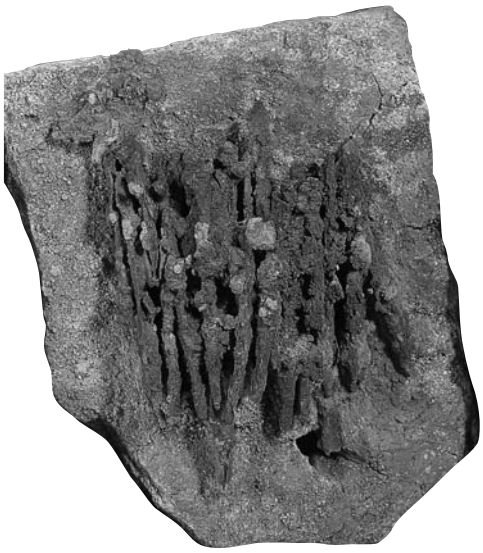
図版五　1号地下式横穴墓（四）

玄室内の人骨および副葬品出土状況（西から）

人骨取り上げ後の副葬品配置（西から）

図版六　1号地下式横穴墓（五）

鉄刀、玉類、ゴホウラ製貝輪の出土状況（西から）



取り上げ後の鉄鏃塊

玉類の出土状況（西から）

上腕骨に装着されたゴホウラ製
貝輪の出土状況（西から）

玄室内右袖側壁面の掘削痕跡（南から）

図版七　2号地下式横穴墓（一）

竪坑埋土の状況（南から）

竪坑の検出状況および
羨門の閉塞石（南から）

閉塞石および玄室内崩落土の
右半部除去後の状況（東から）

図版八　2号地下式横穴墓（二）

全景（南から）

玄室検出状況（南東から）

図版九　2号地下式横穴墓（三）

頭蓋骨の出土状況（南東から）

刀子の出土状況および赤色部分（南から）

玄室内部右袖側の掘削痕跡（東から）

図版十　3号地下式横穴墓（一）

竪坑検出時の状況（南西から）

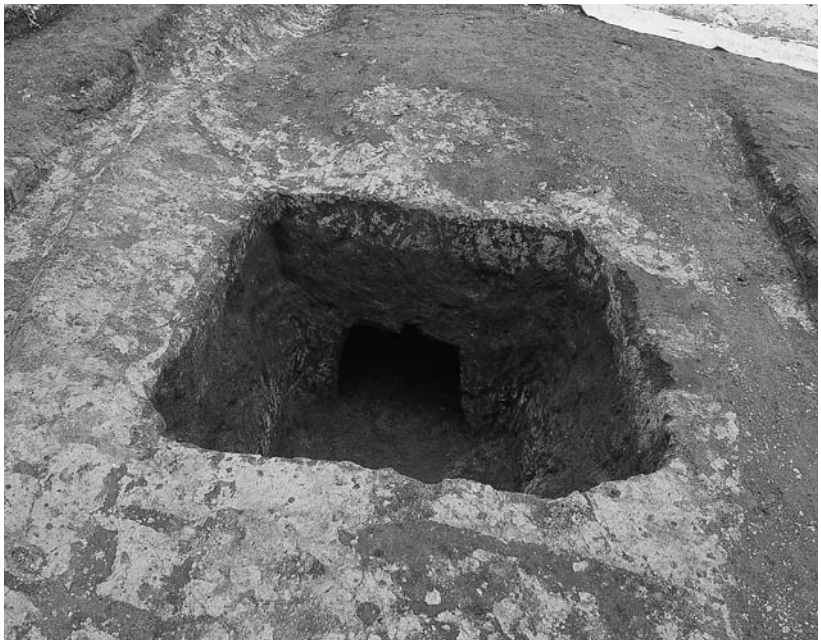
竪坑内部の遺物状況（北東から）

同上近影（北東から）

図版十一　３号地下式横穴墓（二）

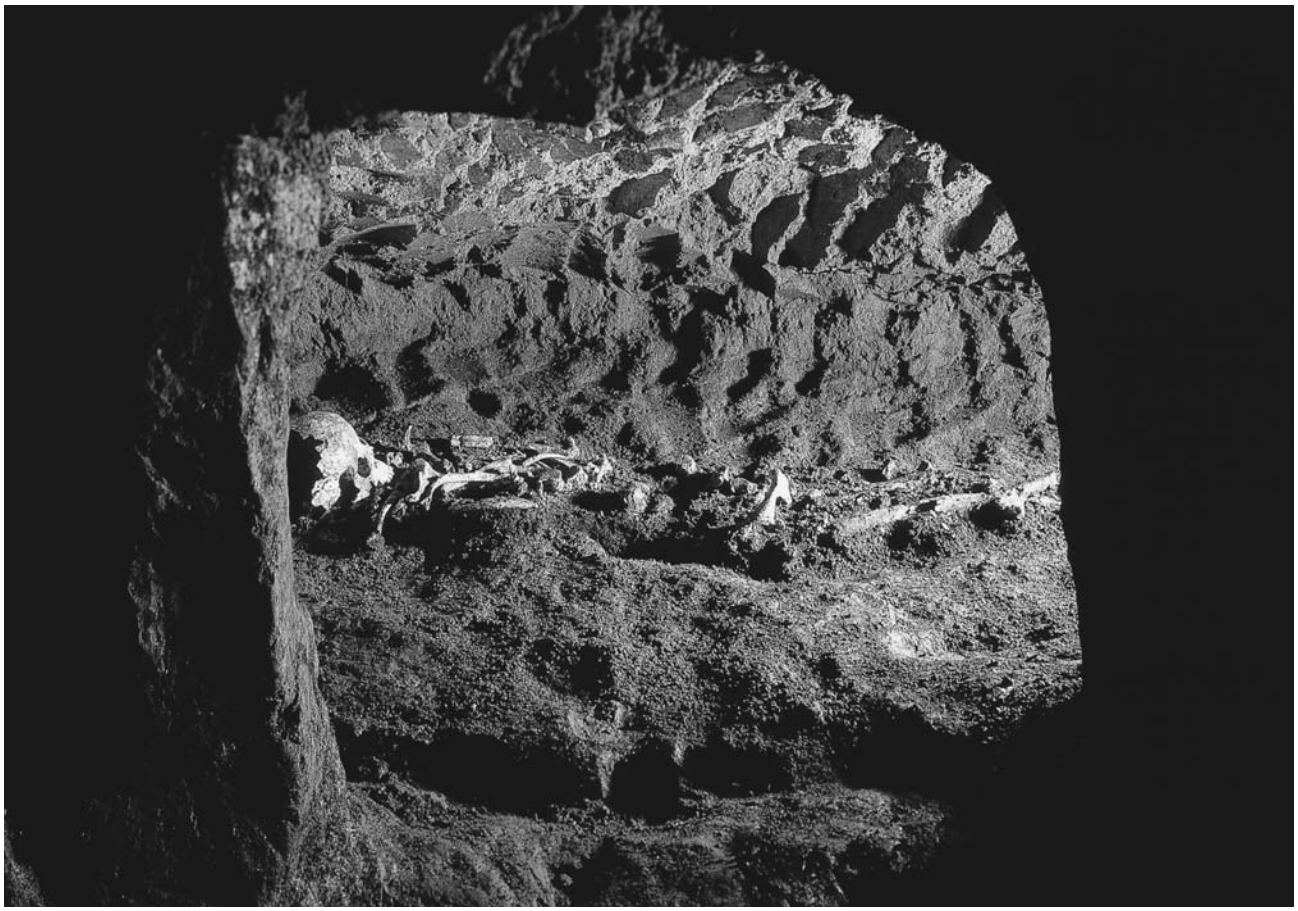
竪坑埋土の状況（南東から）

竪坑埋土の玄室内部への
流入状況（南西から）



竪坑検出状況（南から）

図版十二　3号地下式横穴墓（二）

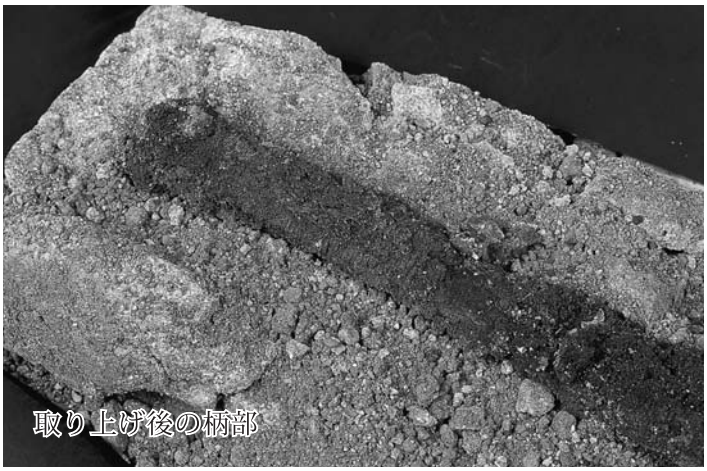


人骨の出土状況（南から）

玄室内壁面および天井部の掘削痕跡（南から）

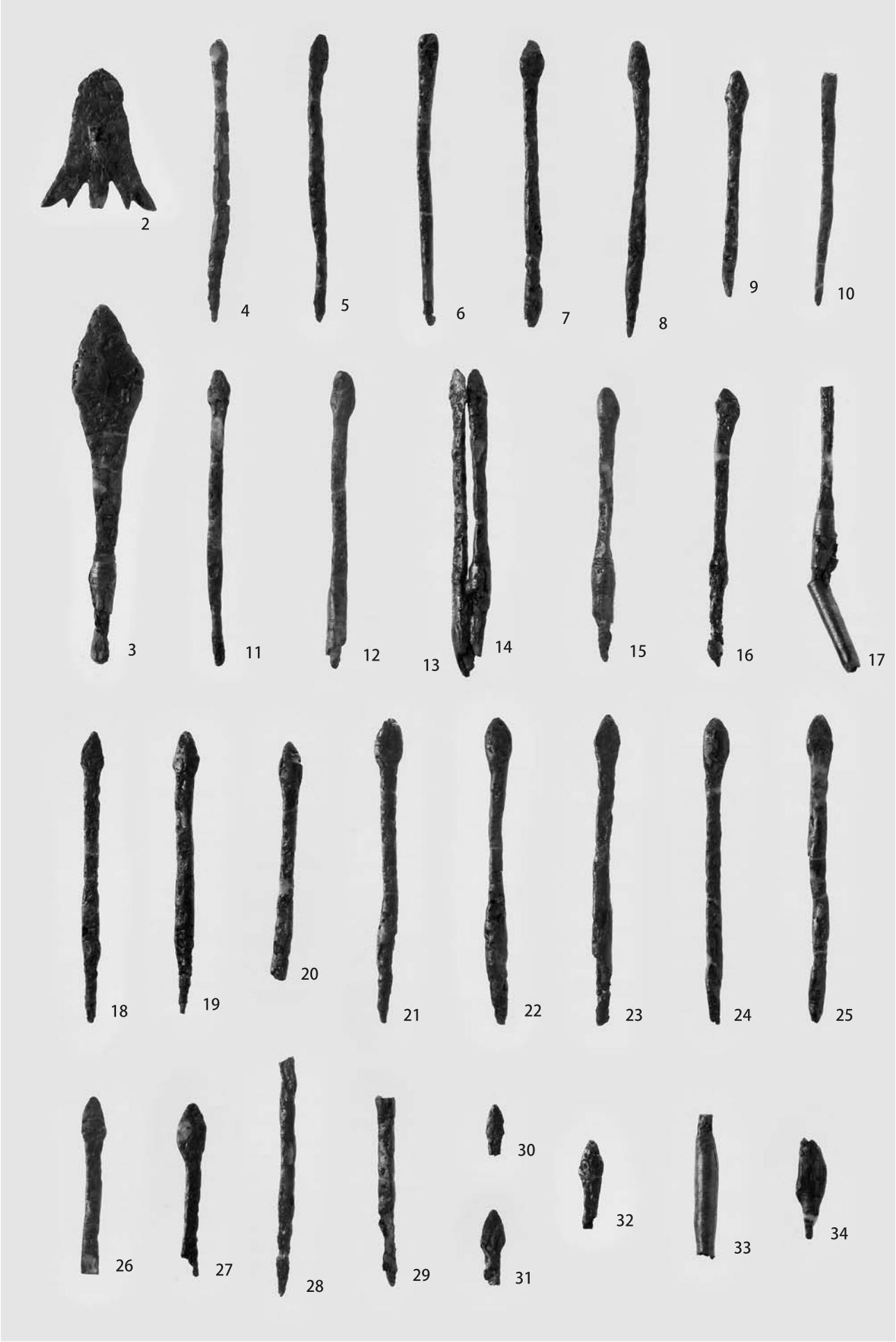
図版十三　1号地下式横穴墓出土の鉄刀

取り上げ後の佩裏側

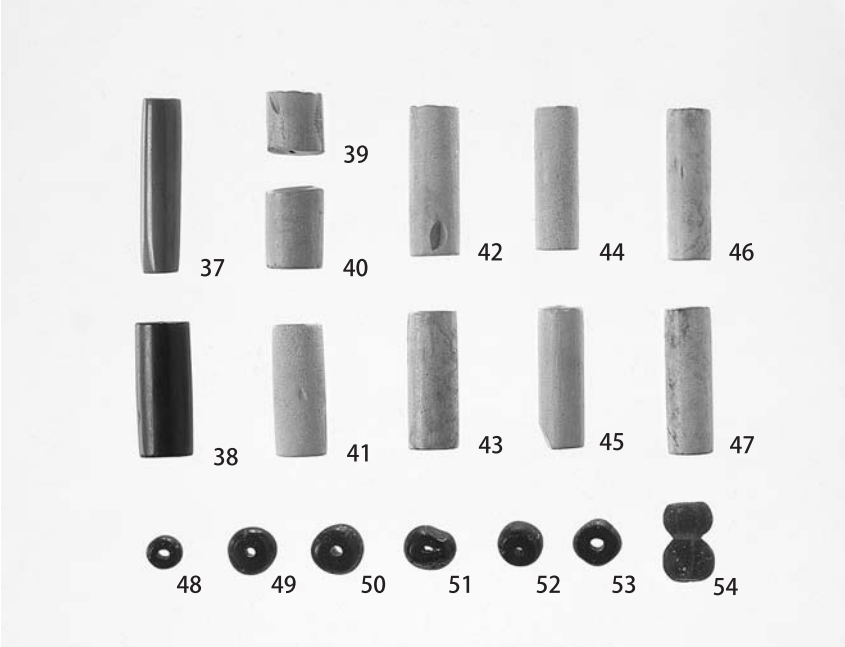

取り上げ後の柄部

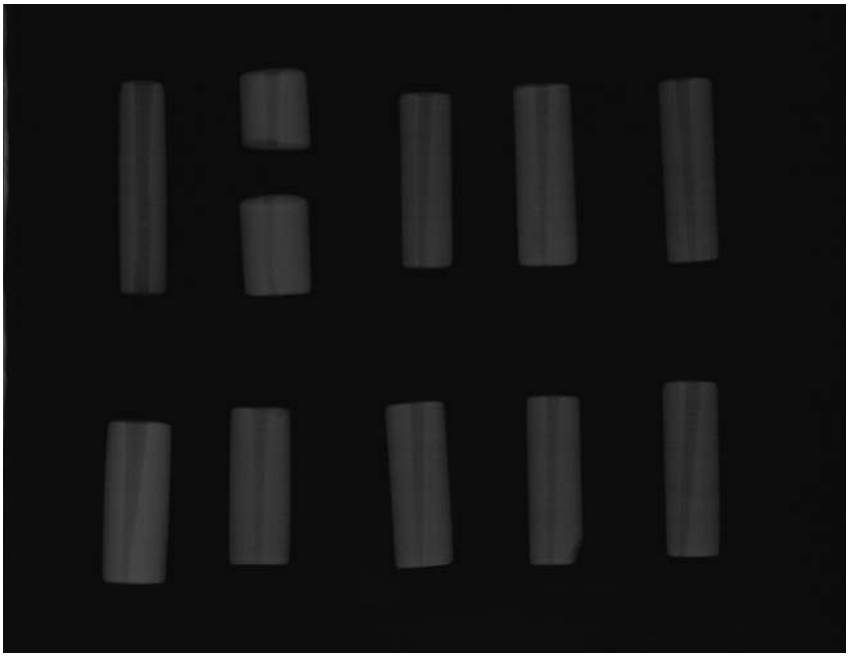
柄縁金具と鋲留め

図版十四　1号地下式横穴墓出土の鉄鏃

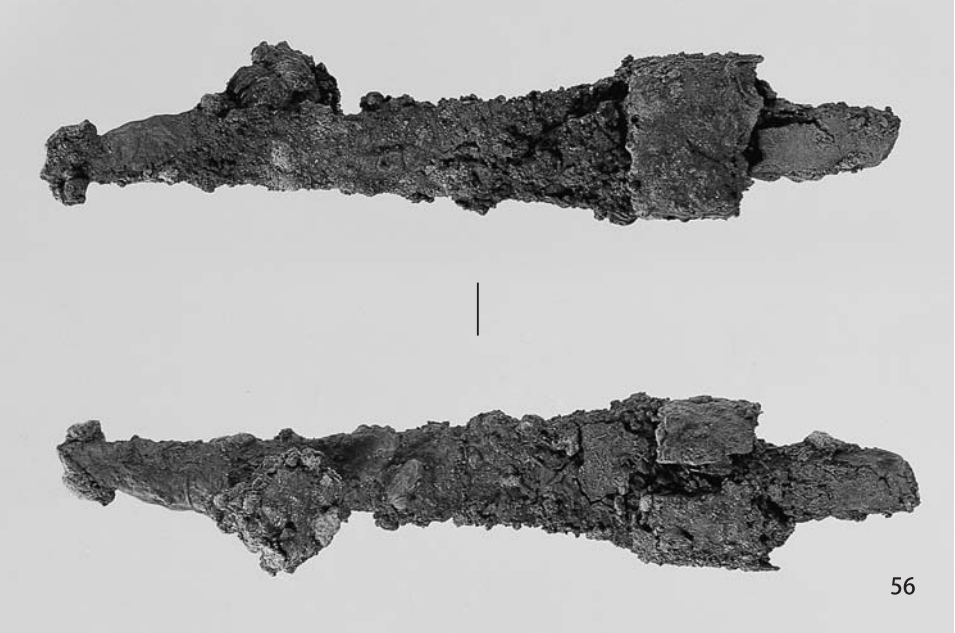


図版十五　1号地下式横穴墓出土の鉄斧・玉類





図版十六　1・2・3号地下式横穴墓出土の貝製腕輪・刀子・土師器



報告書抄録

ふりがな	もみきちかしきよこあなぼぐん
書名	籾木地下式横穴墓群
副書名	国営綾川二期農業水利事業既設管処理その３－１工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第 191 集
編著者名	二宮　満夫
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒 880-0212　宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地　　TEL 0985-36-1171
発行年月日	西暦　2010 年 2 月 26 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もみきちかしきよこあなぼぐん 籾木地下式横穴墓群	みやざきけんひがしもろかたぐん 宮崎県東諸県郡 くにとみちょうおおあざやつしろ 国富町大字八代 きたまたあざかみのはる 北俣字上ノ原 3642－62	453820		32 度 03 分 54 秒 付近	131 度 17 分 51 秒 付近	2009.12.01 ～ 2009.12.26	約 50㎡	国営綾川二期農業水利事業既設管処理その３－１工事に伴う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
籾木地下式横穴墓群	墓域	古墳時代	地下式横穴墓　３基	１号地下式横穴墓 鉄刀、鉄鏃、鉄斧、玉類 ゴホウラ製貝輪	被葬者の伏臥伸展葬 県内４例目のゴホウラ製貝輪の出土
				２号地下式横穴墓 刀子	大きく開口する羨門から短い羨道を介した、平入りで天井の低い玄室形態
				３号地下式横穴墓 土師器坏	玄室内から行われた羨道閉塞の可能性

要約

籾木地下式横穴墓群は、九州山地の裾部に張り出した段丘面上に造営された古墳群である。同一段丘面において初出の墓群であり、今回の調査で３基の地下式横穴墓を検出した。当該墓群の立地が、児湯地域と諸県地域を結ぶ陸上交通路の出入口にあたることから、多様な文化が享受されてきたと考えられる。

１号墓では、単体で埋葬された熟年男性が伏臥伸展葬であったことが特筆される。副葬品として、鉄刀、鉄鏃塊、鉄斧、玉類、ゴホウラ製貝輪が玄室内から出土し、５世紀末葉の築造時期が考えられる。

２号墓は、１号墓の東に近接して造営される。大きく開口した羨門から短い羨道を介する天井の低い平入りの玄室形態は周辺では珍しい。老年男性が単体で埋葬されており、副葬品として玄室から刀子が出土した。築造時期は６世紀中葉頃を想定している。なお、１号墓と２号墓の被葬者は、親子あるいは兄弟である可能性が示唆されている。

３号墓では、玄室入口に設けた溝の存在から、木板などをはめ込むことで玄室を内側から閉塞したと考えている。若年女性が単体で埋葬され、竪坑から土師器坏が出土した。築造時期については、６世紀初頭を考える。

籾木地下式横穴墓群の調査成果は、周辺域の土地利用の領域、造墓、葬送の形態などで新知見を提供するに至った。

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第 191 集

籾木地下式横穴墓群

国営綾川二期農業水利事業既設管処理その３－１工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2010 年 2 月 26 日

発　　行　宮崎県埋蔵文化財センター
〒 880-0212　宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地
電話　0985（36）1171

印　　刷　株式会社イースト朝日　宮崎支店
〒 880-0123　宮崎市芳士字中原 590-1
電話　0985（62）5055